

新型コロナウイルスへの対策

昨年末より中国武漢で発生し、全世界へ感染拡大した新型コロナウイルスによって、6月8日時点で感染者約701万人、死者40万人以上となりました。感染は220の国や地域にまで拡大。マスクの供給が追いつかない状況が続きました。

コロナは、5カ月以上経った今も全世界で猛威を振るっていますが、中国の新規感染者数は、2月13日の1万5152人を境に徐々に減少しており、4月20日以降は35名以下を維持しています。

大手自動車メーカーの比亞迪（BYD）もマスク生産に乗り出し、1日2000万枚という世界最大級の生産体制を築くなど、各業界からの新規参加も相次ぎました。一方、性能の良し悪しも目立ち、政府は4月末までに約9000枚の粗悪品を確認しました。

政府は第2波を防ぐべく、様々な政策を打ち出しており、特に輸入感染症例には厳しく、3月28日より、外国籍の入国を一律禁止。さらに中国ビザを所持している人や、居留許可がある人でさえも、28日以降の入国は禁止しています。中国国籍の場合でも、入国の際には健康証明申告カードの記入、面接、検温、入国審査、行先振り分けなど、

厳密に手続きします。

4月初旬から

は、入国者全員を対象に、空港でのPCR検査の実施が義務付けられました。そして、検査を受けたとしても、高齢者や妊婦などの特例を除き、入国14日間の集中隔离観察が強いられます。

集中観察所は各市区が手配しているホテルで、滞在費用は自己負担（約3000円・50000円／日）。空港で受けたPCR検査結果は、検査後6時間以内にネットで照会できます。

第2波への懸念 厳重体制続く



中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田 義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年。介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

が配置され、定期的に健康モニタリングを行うほか、発熱などで健康状態が悪化すれば、救急車で指定病院に運ばれます。

第2波が懸念される今、中国ではこのように厳重体制が敷かれています。次回も中国のアフターコロナをお伝えします。

観察所には医療従事者

す。